

令和3年(2021年)8月2日

れきみん

資料館だより

No. Ⅲ-32

相生市立歴史民俗資料館

〈資料紹介21〉 下土井・大避神社拝殿の棟札

若狭野町下土井には、^{はたのかわかつ}秦河勝を祭る神社として、また中世矢野荘の鎮守社として史料にたびたび登場する大避神社^{おおさけ}が存在します。現在、拝殿の傷みが激しくなったため大規模改修が行われています。

4月10日には、修理に先立って拝殿に掲げられていた絵馬を取り外す作業が行なわれましたが、その際に棟材中央に打ち付けられていた^{むなふだ}棟札が発見されました。

(上面)



(下面)



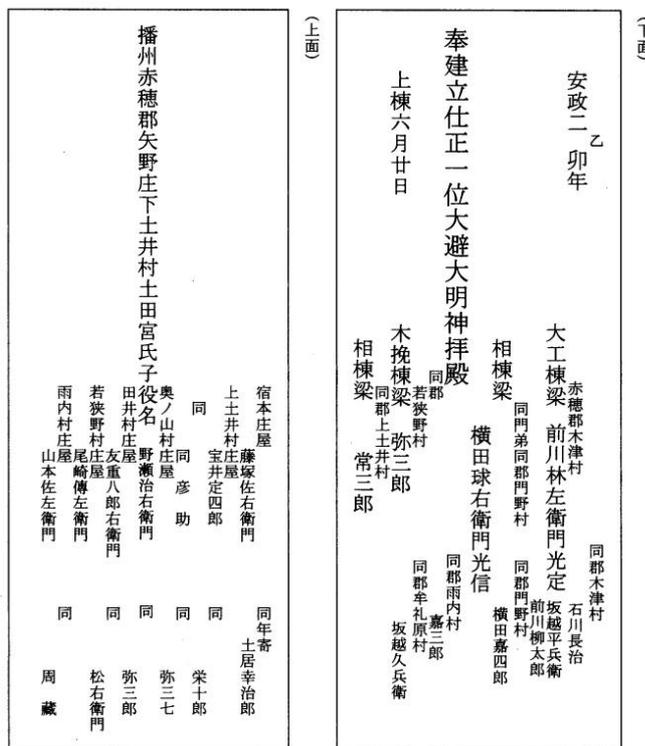
大避神社拝殿棟札 (写真)

『相生市史』第4巻には、「現在の本殿の建築は、棟札によって安政二年（1855）の再建であることが明らかであり、その技法もなかなか優れたもので、赤穂の木津の大工の系統として、19世紀中ごろの神社本殿の標準建築と考えられる」と記されています。

このたび発見された拝殿の棟札にも、「安政二乙卯年」「上棟六月廿日」の記載が見られることから、拝殿も本殿と同時期に再建されたことが判明しました。

棟札は檜材（または杉材）とみられ、縦60.7cm、横17.7cm、厚さ1.1cmを測ります。同大の板材でカバーされていたため、保存状態はきわめて良好です。

下面に書かれた10名の職人の名と在所から、「大工棟梁 前川林左衛門光定」をはじめ木津村（現赤穂市）の大工が中心的役割を担い、門野村（現相生市矢野町の一部）等の大工が補佐していたことがわかります。また、木挽（材木の選定・調達等）は近くの若狭野村と上土井村の者が当たっていたことがわかります。



大避神社拝殿棟札（解説）

上面には、再建を主導したとみられる「氏子役」となった各村の「庄屋」「年寄」13名の名が記されています。「宿本庄屋」という役名から、大工らが泊り込みで再建に当たっていた様子がうかがえます。

本資料は、8月1日（日）から当資料館常設展（2階展示室）で公開・展示していますので、ぜひご来館いただき直接ご覧ください。

なお、絵馬の中には、明和4年（1768）の武者絵馬をはじめ、天保13年（1842）の武者絵馬（玉光筆）、弘化3年（1846）の神話絵馬（スサノオとヤマタノオロチ）など、江戸時代に製作されたものが含まれています。また、姫路小性町の絵馬師・土井継信の作品（明治40年（1907）参宮記念図、明治41年（1908）一の谷合戦図）もありますので、調査・補修後に改めて紹介したいと考えています。

〈参考文献〉

多淵敏樹 1987「神社建築」『相生市史』第4巻（相生市・相生市教育委員会）

熱田 公ほか編 1988『角川日本地名大辞典 28 兵庫県』（角川書店）

〔付記〕

室井眞和氏、山本 渉氏をはじめ関係自治会の皆様にご協力をいただきました。また、足立由美子氏、小野真一氏からご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。

（中濱久喜）